

夢に向かって

続けることで好きになる——

未永 ^{あいら}愛羅 さん (県北中3年)

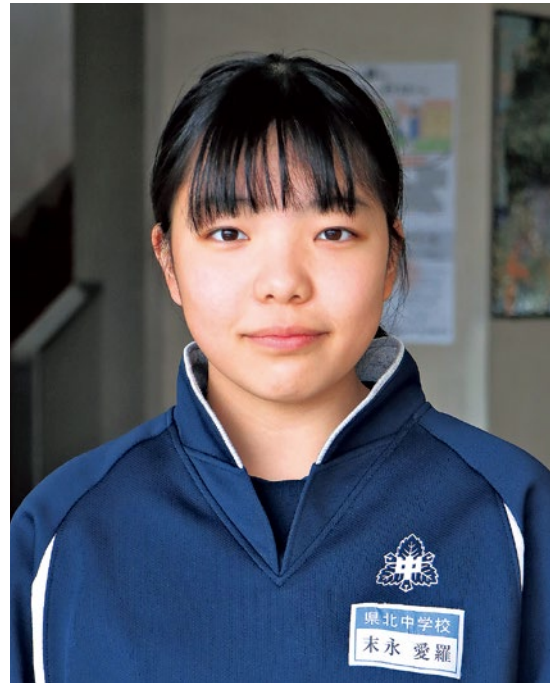
私の将来の夢は、まだはっきりと決まっていません。

これから変わるかも知れませんが、獣医師や動物園の飼育員のような動物に関わる仕事に興味があります。

小さい頃から自宅で犬や猫を飼っていたので、動物と触れ合う機会が多くありました。その影響で動物が好きになったのだと思います。ケガや病気で苦しんでいる動物たちを優しくケアしてあげられるようになりたいです。

小さい頃は運動が嫌いでしたが、中学校からバスケットボールを始め、特設陸上部にも入部しました。初めのうちは仕方なく参加していた陸上でしたが、続けるうちに大好きになり、今では長距離を走るのがとても楽しいです。高校に進学しても陸上競技を続けたいと思っているし、最近ではスポーツに関係する仕事にも興味が出てきました。

大人になったらどんな人にでも親切にして、困っている人がいたら自分から進んで助けてあげたいと思います。相手の立場に立って物事を考えることができるようになりたいです。なりたい職業が変わっても、どんな夢でも叶えられるように、まずは志望校合格を目指して受験勉強を頑張ります。



嫌いだっただ運動を続けることで克服した未永愛羅さん。
「あんなに陸上が嫌いだっただのに、大好きになりました！」と笑顔で話す姿に、改めて“続けることの大切さ”を実感しました。



町長コラム

ま 真 くらむ

【第19回】

くにみ学園構想～意見募集中～

平成26年に始まった、保幼小中一貫教育をさらに進めたくにみ学園の基本構想の案がまとまる。内容は、町のホームページと学校教育課で公開し、2月16日まで意見を募る。

「なぜ、今、くにみ学園なの？」その理由は、①減ったとはいえ、国見で育っていく子どもたちが、現にここにいること ②その子どもたちが愛おしく、一人ひとりを大事にしたいこと ③これまでの国見町の保育や教育の取り組みを整理し、さらに深化させたいこと ④行政が国見の子どもたちに残せることの1つに、教育や教養、自らと他を尊重する心、生きる力といった無形のモノがあること ⑤細かなことに目を向ければ、保幼小中が点在する国見は、ただでさえ慌ただしい朝夕、2人以上の子どもの通所や通園、通学の送迎の負担が大変との声があること ⑥一方、保幼小中の現場では、多様な子どもたちが増え、かつての保育や教育の基準や対応が通用しなくなっていること ⑦これらを実現するためには、ソフト面に軸を置いた前例のない子育て・教育環境を整える必要があると思ったこと。今回公開した基本構想は、くにみ学園で何をすべきかを示したものの。ハード、ソフトといった分け方をすれば、ソフトのこと。

子育てと教育、その延長にある少子対策…。くにみ学園の目的と財源は、県教委と文科省にアウトラインを伝え、支援を依頼している。

国見で子育てしたい、教育を受けさせたいと思う親たちを大事にしたい。町内外に増やしたい…。基本構想への意見を待っています。

ホームページはこちら⇒ <https://www.town.kunimi.fukushima.jp/soshiki/13/14749.html>



引地 真